

試合番号 : 197	試合会場 : ウイングアリーナ刈谷	観客数 : 2,353				
開始時間 : 13:00	終了時間 : 14:37	試合時間 : 01:37	主審 : 村中 伸	副審 : 沢田 元		
ジェイテクトSTINGS	通算 7勝 13敗 ポイント: 21	0	20 第1セット 25 22 第2セット 25 19 第3セット 25 第4セット 第5セット	3	ウルフドッグス名古屋	通算 14勝 6敗 ポイント: 42
監督コメント	ウルフドッグス名古屋をまずは称えたいと思います。また気持ちを切り替えて、次節に挑みたいと思います。いつも多くの声援ありがとうございます。来週も大事な試合を控えていますので、たくさんの応援よろしくお願いします。				監督コメント	昨日の厳しい試合からの課題を活かして選手たちがより良くプレーしようとしてくれたことを嬉しく思います。自分たちのリズムでプレーすることがこの試合において一つの重要なポイントだったと思います。お互いの気迫あふれるプレーと会場のファンの皆様のご熱気で白熱した試合となりました。我々ウルフドッグス名古屋のファンがこの愛知ダービーに駆けつけて下さったことに、心から感謝と敬意を表したいと思います。"エントリオ"次週、我々のホームアリーナである豊田合成記念体育館"エントリオ"で再びファンの皆様にお会いできることを心待ちにしております。最後まで残りながら、この度被災された方々へお見舞い申し上げますと共に、救援・復興活動へご尽力されるの方々も含めて、皆様の健康と安全を祈っております。
要約レポート	第1セット、福山の連攻、高橋(慶)のサービスエースなどによる3連続ブレイクで、ジェイテクトが7-5と序盤リードを奪った。しかし、WD名古屋は山崎の攻撃やクレクのブロックなど4連続ブレイクで逆転、WD名古屋はそれ以後もクレク・山崎のサービスエースなど強力なサーブから主導権を握り、最後までリードを守った。特に、山崎が乱れたトスを左手で押し込んで得点する場面があり、WD名古屋の勝負強さが目立った。第2セット、序盤に連続ブレイクで6-4と抜け出したWD名古屋が、最後までリードを守り続けた。レフトサイドから山崎と高梨、ライトサイドからクレクが何度も強打を放ち続けた。ジェイテクトも粘りを見せたが、兼・村山のサービスエースの場面でそれぞれ1点差まで追いついた。ジェイテクト村山のブロックポイントで始まった第3セットは、村山が中盤までさらに2本のブロックを決め、関田がサービスエースを奪うなど、15-13とジェイテクト優位の展開となった。しかし、WD名古屋がここで覚醒した。高梨の強打・軟打、主のブロック・速攻で4連続得点を奪うと、20-18からは高梨のバックアタック、クレクの強打、相手のミスで3連続得点となり、最後はクレクがジャンプフロッターサーブを放つと、味方をつないだボールをライトサイドから渾身の強打で決めてWD名古屋に白星をもたらした。					

試合番号 : 198	試合会場 : おおきにアリーナ舞洲 (舞洲アリーナ)	観客数 : 1,027				
開始時間 : 13:35	終了時間 : 16:04	試合時間 : 02:29	主審 : 中山 健	副審 : 浅井 唯由		
サントリーサンパーズ	通算 17勝 3敗 ポイント: 48	3	18 第1セット 25 21 第2セット 25 25 第3セット 23 25 第4セット 22 15 第5セット 11	2	JTサンダーズ広島	通算 13勝 7敗 ポイント: 39
監督コメント	本日もタフな試合となりましたが、皆さまのご声援のおかげで勝利することができました。有難うございました。昨日、今日と第1、第2セットを落とすところからの逆転勝ちということで、苦しい展開から、それを覆すことのできる精神力、強さは証明できたと思います。JTサンダーズ広島は、サーブ、ブロック、ディフェンス、すべてにおいてレベルが高かったですし、改めて力のあるチームだと感じました。さらに成長するためにも我々の"PLAY HARD"は必要なことだと思いました。ファンの皆さまとともに喜びを分かち合い、成長していきましょう。2日間ホームゲームへのご来場有難うございました。				監督コメント	昨日と同じような展開となってしまったことは残念でした。プレーの質自体は向上していますが、勝ち切ることができないことが課題として残りました。何が必要なのかを分析して、今後の試合に向けて改善できるよう取り組んでいきます。ファンの皆様ご声援有難うございました。
要約レポート	サントリーサンパーズが、昨日に引き続きフルセットでJTサンダーズ広島を制し、ホームゲームを勝利で飾った。第1セット、サントリーはムセルスキーに、JT広島は江にボールを集め、両チームサイドアウトを繰り返して、中盤JT広島は新井のスパイクで勢いに乗りリードすると、粘り強いブロックで、サントリーの攻撃を阻み、新井のサービスエース、江のアタックでリードを広げ、このセットを取る。第2セット、JT広島はラッセル、江のアタックで流れをつかむと、途中で投入した坂下が攻守に渡る活躍でセットを連取する。第3セット、後が広いサントリーは、アライン、ムセルスキーのアタックで徐々にリードを広げ、このセットを取り返す。第4セット、サントリーは藤中(謙)のアタックとブロックで好スタートを切ると、藤中(颯)の好レーブでJT広島の猛追を許さずサントリーはこのセットも連取する。第5セット、小野寺のブロックで流れを引き込むと、アライン、佐藤のアタック、大宅のサービスエースでさらにたたみかける。そして最後は、ムセルスキーのアタックでサントリーが勝利した。					

試合番号 : 199	試合会場 : パナソニックアリーナ	観客数 : 2,795				
開始時間 : 14:05	終了時間 : 15:31	試合時間 : 01:26	主審 : 戸川 太輔	副審 : 本間 明		
パナソニックパンサーズ	通算 17勝 1敗 ポイント: 50	3	25 第1セット 17 25 第2セット 17 25 第3セット 14 第4セット 第5セット	0	東京グレートベアーズ	通算 6勝 16敗 ポイント: 22
監督コメント	3-0でいい勝利でした。今日は集中力を切らさずに試合に挑めました。来週も大事な試合があるため、全員で頑張ります。応援よろしくお願いします。				監督コメント	本日もご声援ありがとうございます。相手のサーブに攻められて、サイドアウトをなかなか取れませんでした。自分たちのサーブは良く、相手にダメージを与えていたと思いますが、ブロックとディフェンスが上手に機能しませんでした。来週はホームゲームがありますので、改善して挑みたいと思います。
要約レポート	天皇杯に続き、Vリーグ優勝を目指すパナソニックパンサーズが、昨日同様、東京グレートベアーズをホームに迎えての一戦。第1セット、序盤から一進一退の展開となるが、パナソニックは、大塚や西田のスパイクで流れを掴み、17-13とリードする。一方、東京GBは、リベロ古賀を中心に粘りを見せるが、パナソニックは、終盤12-0近い西田のサーブから4連続ポイントを奪い、そのままセットを先取した。第2セット、パナソニックは、セッター深津が相手のブロックに的を絞らせないスワークで翻弄すると、山内の高さあるスパイク、ジェスキーの相手ブロックを利用したスパイクで、優位に試合を進め、16-6と大きくリードする。一方、東京GBは、流れを変えようと、星野、戸崎が奮起し、4点差まで縮めるも、パナソニックの勢いは止められず、最後は西田のサービスエースでセットを連取した。第3セット、後がなくなった東京GBは、星野、後藤を中心に、立て直しを図り、12-13と1点差まで追いつめるも、日本代表メンバーを有するパナソニックの勢いは止められず、最後は深津のサービスエースで勝利した。パナソニックパンサーズは11連勝と白星を重ね、首位をキープした。					

試合番号 : 200	試合会場 : 北九州市立総合体育館	観客数 : 1,859				
開始時間 : 13:00	終了時間 : 14:40	試合時間 : 01:40	主審 : 木内 誠二	副審 : 山本 晋五		
日本製鉄堺ブレイザーズ	通算 13勝 7敗 ポイント: 38	3	25 第1セット 17 28 第2セット 26 25 第3セット 21 第4セット 第5セット	0	VC長野トライデンツ	通算 1勝 9敗 ポイント: 6
監督コメント	北九州大会、2日間応援ありがとうございました。苦しい状況の中、勝ち切ることができて良かったです。来週以降、また厳しい戦いが続きますが、引き続きサポーターの皆さんと勝利を共に喜べる様に頑張ります。来週も応援をお願いします。				監督コメント	昨日の試合から修正をし、本日の試合に挑みましたが、スタートからミスが出てしまい、リズムを掴むことが出来ませんでした。2セット目、良い流れで終盤までいきましたが、ここぞと言う場面での得点が取れず、逆に日鉄堺BZは強いサーブを打ち込み、最後までサービスエースと強いメンタルが見えました。セット中盤から終盤にかけての集中力や、終盤に強いサーブを打ち込める技術とメンタルが必要と感じました。修正出来るところはしっかりと修正し、来週のホームゲームで戦い抜きたいと思っております。2日間北山のご声援ありがとうございました。また来週も応援をお願いします。
要約レポート	昨日に引き続き勝利して、北九州ホームゲーム最終戦を勝利で飾りたい6位日本製鉄堺ブレイザーズと、10位VC長野トライデンツの今シーズン最終戦。竹元の連攻とバーノンからの連続ブレイクで、序盤から日鉄堺BZがリードする展開となった第1セット、VC長野も修と藤原の攻撃で応戦するが、高野の攻撃と竹元の速攻でブレイクを積み重ねた日鉄堺BZが徐々にリードを広げていった。修の高野の打点からの攻撃もバーノンの高いブロックに阻まれ、試合の流れを逃さなかった日鉄堺BZが、最後は樋口のブロックが決まり、セットを先取した。続く第2セット、日鉄堺BZはバーノンと高野の攻撃を中心に、対するVC長野は修、藤原、中野の攻撃が決まり、終盤まで一進一退の攻防が続いた。終盤VC長野が追いつき、デュースにもつれ込んでセットポイントを埋めたが決めきれず、最後は樋口のサービスエースが決まってVC長野を振り切り、日鉄堺BZがセットを連取した。あとの無くなったVC長野は、修、藤原、山田を中心に序盤から全員攻撃で攻め続け、一歩リードする展開となった第3セット、日鉄堺BZは、バーノンの安定した攻撃と渡邊の速攻とブロックで流れを取り戻し、高野の活躍も光って逆転した。VC長野の強力な速攻もリベロ森の好守に阻まれ、攻撃のリズムを取り戻した日鉄堺BZが一気にリードを広げた。最後は渡邊のブロックが決まって日鉄堺BZが連勝を4に伸ばし、北九州ホームゲーム最終戦を勝利で飾った。					

※本票の著作権は、一般社団法人ジャパンバレーボールリーグに帰属します。